

新館3階での挙式風景。ピーク時

1991年に閉館した大ホール(手前)が

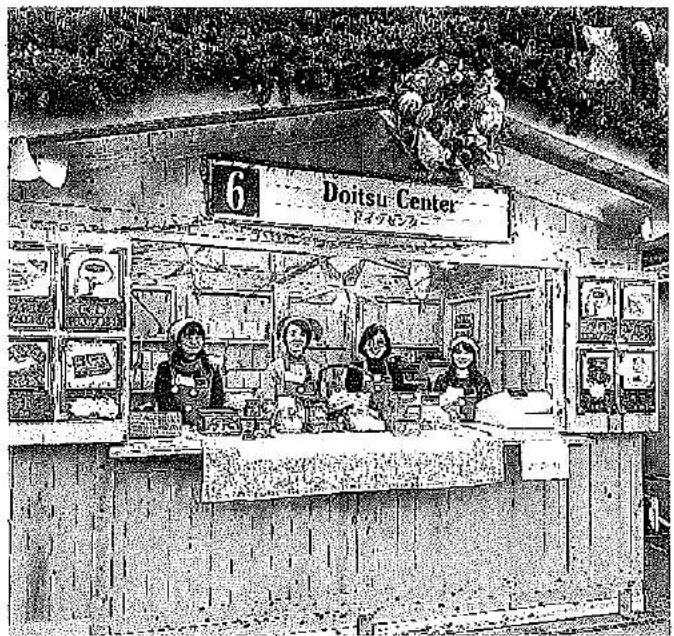
鹿沼産のスギ材が 東京で小屋に変身

×マスマーケットぬくもり添え

東京都千代田区の日比谷公園噴水広場で開催されている「東京クリスマスマーケット2016」で、立ち並ぶ店のヒュッテ(木の小屋)の木材に鹿沼市で切り出されたスギ材が使われている。クリスマスの華やかな都心に、木のぬくもりが彩りを添えている。

東京クリスマスマーケットは、ドイツ・ドレスデンで1434年から続く催しを参考に、昨年始まった。昨年は約20万人が訪れたビッグイベントで、今年も多くの人でにぎわっている。

広場には木のあたたかみを感じさせる小屋が立ち並び、クリスマスケーキやホットワイン、くるみ割り人形などの雑貨が売られている。これらの店の木材がすべて、今年から鹿沼市産のスギ材になった。実行委員長の青木浩晃さ



ん(56)によると、ドイツと日本の文化の融合を目指すマーケットにしたいと考え、ドイツ木材の小屋から変えたという。店舗に使わ

れた32棟の木材は、自然保護などに配慮して適切に管理されたと第三者機関が認める「森林認証」を受けた

鹿沼市産のスギで建てられたヒュッテは東京クリスマスマーケット2016実行委員会提供ものだ。

青木さんは「鹿沼の木材は質がいいし、環境への配慮もされているので選びました」。ヒュッテを制作した栃毛木材工業(鹿沼市下永野)の関口弘社長(45)は「多くの人に良い木材を見てもらいたい」と話す。25日まで開催。午前11時

午後10時。問い合わせは東京クリスマスマーケット2016実行委員会(03・3524・0890)へ。(直木詩帆)

十文に思いを込め 文星芸大特任教授ら描く

前年から始まる。日光二荒山神社は、来年の干支をあしらった色紙や絵馬づくりが進んでいる。13日前から色紙を描いている文星芸大の荒井孝特任教授(78)のほかに、初めて同大の宮北千織教授(49)が大絵馬を、中村寿生准教授(49)が中絵馬の干支を描いた。

3人は日本画が専門で、これでも同神社中宮祠の神楽殿の天面を描いている。色紙の干支が周した荒井さんは「酉は飛躍の年赤と白と黒色で力強く表現した」宮北さんは「東京芸大に合格した時の試験で描いたのがチャボ。心を忘れずに、はばたく思いを年に託した」と説明。中村さん「来年こそ不景気を吹き飛ばすと大黒様を描いた。えびしはカスだが、鶏に仕立ててカラフル色で社会の明るさを強調した」とう。吉田健彦宮司(80)は「来年に3人の思いのこもったものになりました」と目を細めた。(梶山天



予)と

0
1761
1764
ht.com
5525
2170
2345
7512
ま
0843
1.00)
6769
4222
気
-18時
0
10
10
0
0
小山
東
佐野
60%
最低
2度
0度
-2度
0度
2度
小山
東
佐野